



フィジー通信

No. 6
2019年3月

青年海外協力隊2017年度1次隊 栄養士 佐藤綾己（あやみ）



Bula! これまでの通信を続けて読んでくださっている方は、フィジーにかなり詳しくなっていると思います。今回は更にフィジーを知るべく、政治、教育、環境への取組みについてお伝えします。（この3項目については、自分のためにもまとめておきたいとずっと思っていたのです…どうぞお付き合いください。）

政治

昨年2018年11月14日（水）は、フィジーで4年に1度の総選挙が行われた日でした。この日は仕事も学校も休みになり、人々が投票に行くためにバス賃も無料になるような、普段とはまるで違う1日でした。選挙の投票券は日本のように選挙の度に発行されるのではなく、運転免許証のようなカードが一人一枚発行され、そのカードを生涯を終えるまで持ち続けるのだそうです。

休日が1日増えてラッキーと呑気に考えていた私ですが、選挙が近づくにつれて、だんだんと緊張感を持つようになりました。それは過去に4度、政権の交代に伴うクーデターが起きているからです。私の職場近くの道路でも、つい20年ほど前に政権への不満による暴動があったと聞きました。選挙前には、日本大使館から私たちが在フィジー日本人に向けて、安易に政治の話に入らないことや、投票所には近づかないようになどの注意喚起がされました。

フィジーはおおよそ6割の原住系と4割のインド系の他、少数の中国やイスラエルなど多数の民族グループで構成される多民族国家です（詳しくはフィジー通信第1号をご覧ください）。1970年にイギリスから独立して以来、様々な場面で原住系のフィジー人に有利な政治が執り行われていました。例えば、原住系以外は自分の土地を持つことができない、学校の奨学金を受けられないなどです。このような民族による待遇の違いに不満を持つインド系との対立でクーデターが起こることとなりました。

しかし現在は原住系もインド系も全員が平等なフィジー人であると掲げるフィジーファースト党が政権を持ち、政治を行っています。この政権になったことで、これまで問題となっていた土地や奨学金に関わる制度の改革、すべての民族に平等に選挙権が与えられるなど、まさに All Fijian の政治が実行され、多くの人が幸せに暮らせるフィジーになったように見えます。しかし、昔ながらのフィジーの土地を守りたい、他民族を受け入れすぎてフィジーがフィジーではなくなってしまうと考えている原住系のフィジー人が多いのもまた事実です。

そして昨年の総選挙では国会議員51議席のうち27議席をフィジーファースト党が獲得し、再選しました。数字で見ても分かる通り、野党とはきん差の勝利となり、票の数え直しを求める声が多くありました。選挙後の暴動やトラブルはありませんでしたが、しばらくは選挙の度に緊張することになりそうです。



▲選挙カードを紛失してしまい、再発行するために並ぶ人々。選挙の前日はものすごい行列でした。選挙権を持っているのは18歳以上です。



▲投票を終えた人は、指にインクを付けられます。自分以外の選挙カードを使った不正投票を防ぐためです。

教育

右の表のように、日本とフィジーの教育制度は、義務教育の開始や期間について違いがあります。フィジーのほとんどの親は教育にとっても熱心で、良い成績を取って、いわゆる良い仕事に就くことを子どもに言い聞かせています。最近までは受験科目ばかりを行っていた学校教育ですが、徐々に広がりつつあるのが情操教育の科目として行われるピーマック【Physical Education(体育)・Music(音楽)・Art & Craft(図工)】の普及と定着を目指す動きです。JICAは教育事務所にボランティアを派遣して支援を行っています。私は学校の先生ではありませんが、同僚や友人に頼まれて子どもに折り紙を教える機会は多いです。

年齢(歳)	日本		フィジー	
6	幼稚園	年長	Primary School	Year1
7	小学校	1年生		Year2
8		2年生		Year3
9		3年生		Year4
10		4年生		Year5
11		5年生		Year6
12		6年生		Year7
13	中学校	1年生		Year8
14		2年生	Secondary School	Year9
15		3年生		Year10
16	1年生	Year11		
17	2年生	Year12		
18	高校	3年生		Year13

▲赤枠が義務教育

環境

フィジーの廃棄物は、地区ごとにある大きな最終処分場で埋め立て処理が行われます。私は写真を見ましたが、本当にテレビで見るような大きなゴミ山でした。残念なことに、街やバスの中など、どこにでもお菓子やジュースを楽しんだ後のプラスチックゴミが落ちています。少し前までは果物のタネやココナッツの殻など、ゴミは全て自然に戻るものばかりでポイ捨てしても問題はありませんでした。急速に発展したフィジーは、その習慣が残ったまま外国から新しい製品が入ってきて、ゴミ処理の整備や人々の習慣の変化が追いついていないのです。それでも少しずつリサイクルやゴミの取扱いの知識が、それもまた外国から入ってきて、環境への取組みが大きく変化しつつあります。



▲ゴミ捨て場は野良犬に荒らされないように、高くなっています。回収日は週に3回。



▲公道脇の草刈りは市役所が定期的に行ってくれているため、いつも綺麗です。



▲使い終わった紙はリサイクルして、トイレトペーパーに生まれ変わります。

人気のエコバッグ | 環境に優しく、女性の自立も支援



フィジーでは環境への配慮として、2017年8月から買い物袋が有料になりました。そこで活躍しているのが、市役所が販売に力を入れているエコバッグです。縫製工場で大量に出る布の切れ端を回収して、地域の婦人会のような女性グループがバッグに変身させ、300円くらいで販売しています。一つ一つ手作りなので、同じ柄は2つとありません。売り上げは彼女たちの収入となるため、女性の自立支援にも繋がる仕組みです。私も愛用しているこのバッグはフィジーらしい模様を上手に使っており、外国人観光客にも人気があります。

それではまた次号でお会いしましょう。Moce. Sota tale. (モゼソタタレ/またね)